

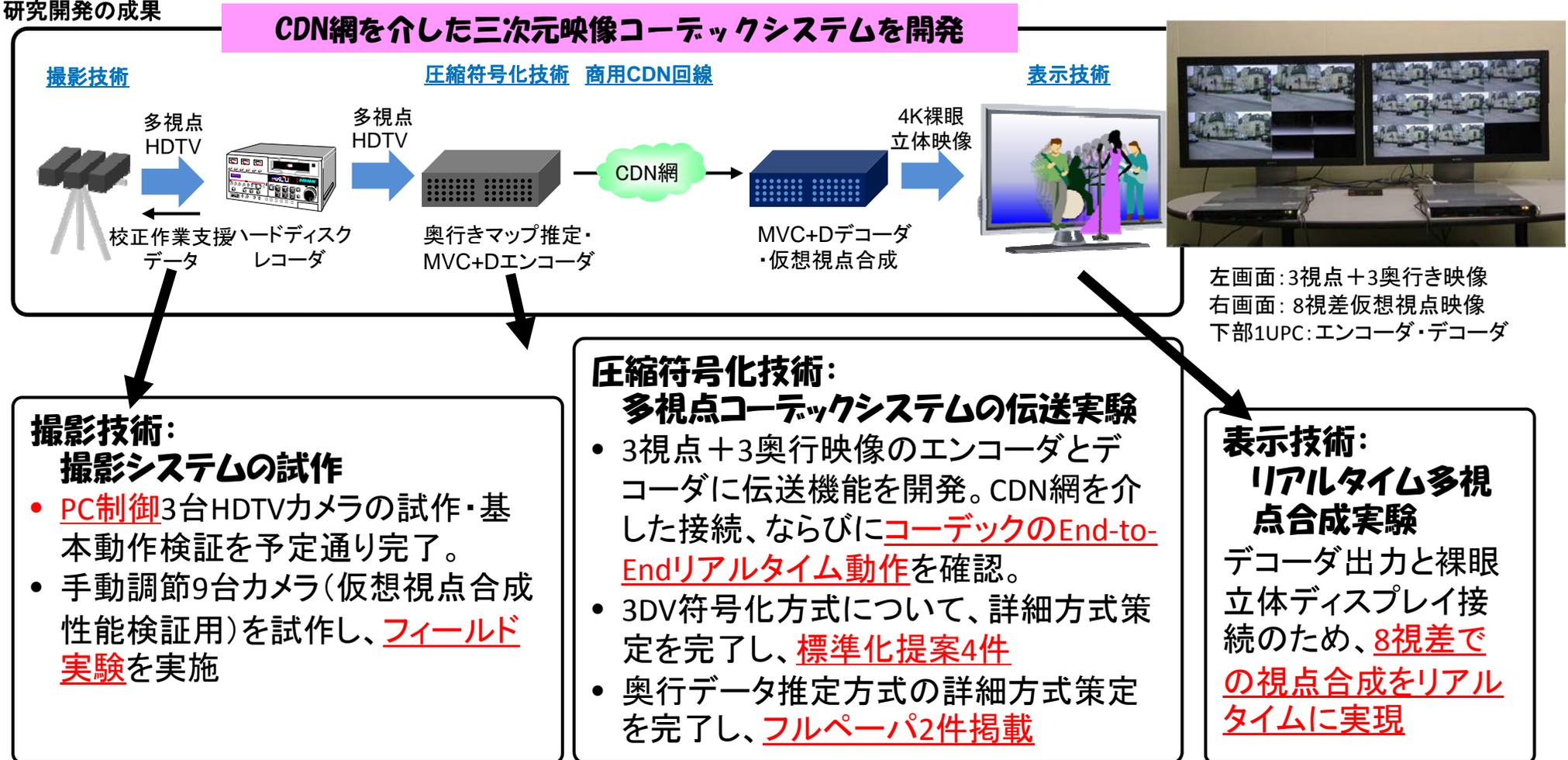
1. 実施機関・研究開発期間・研究開発費

- ◆実施機関 株式会社KDDI研究所
- ◆研究開発期間 平成24年度から平成27年度(4年間)
- ◆研究開発費 総額239百万円(平成25年度 65百万円)

2. 研究開発の目標

二年目の取組みとして、撮影システムの試作、商用のCDN回線を介した伝送のフィールド実験、リアルタイム多視点合成表示実験を実施し、End-to-Endでのシステムを構築に注力する。

3. 研究開発の成果



4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等) ※成果数は累計件数と()内の当該年度件数です。

	国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース	展示会	標準化提案
革新的な三次元映像技術による超臨場感コミュニケーション技術の研究開発(課題カー1)	1 (0)	1 (1)	2 (2)	19 (10)	0 (0)	0 (0)	6 (5)

5. 研究成果発表等について

スポーツシーンを対象とした映像の解析・合成処理方式について、**フルペーパー論文掲載2件、IEEE国際会議発表2件**を達成

スポーツシーンを対象とした選手領域の追跡・合成方式について、電子情報通信学会論文誌D分冊、映像情報メディア学会誌、およびIEEE国際会議 International Conference on Image Processing (採択率44%)に投稿、採択された。加えて疎なカメラ配置からの人物領域の抽出・合成方式について、IEEE国際会議Multimedia Signal Processing (採択率54%)に投稿、採択された。

6. 今後の研究開発計画

- 三次元映像伝送のコア技術である3DV符号化方式についてパラメータ最適化も含む方式検討を完了させると同時にシステム化を図り、カメラ3台の構成においてEnd-to-Endでの遅延時間を0.7秒以下に抑える。またリアルタイム処理可能なフレームレートとして60FPSを満足し、20Mbpsの符号化レートにおいて十分なユーザ体感品質を保証する
- 圧縮符号化に関連する提案方式を対象に、ISO/IEC JTC1 SC29 WG11 (MPEG)、またはITU-T SG16 Q.6 (VCEG)における標準化活動を推進し、当該プロジェクト成果の規格採用を図る
- CEATECなどコンシューマ向けIT技術を対象とした展示会への出展を行い、技術広報ならびに実用化に向けた情報交換を行う